

カハメ テイジ



ハツユメ『コトモノクニ』(第11巻第1号/部分) 東京社 1932年 大塚府立国書児童文学館蔵

生涯120年記念

KAWAME TEIJI

河目悌二展

2009.7.18^土 → 9.6^日
 刈谷市美術館 Kariya City Art Museum
 1階 第1展示室+特別展示室 [入場無料]

開館時間=午前9時→午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日=7.21(火)、27(月)・8.3(月)、10(月)、17(月)、24(月)、31(月)
 主催=刈谷市・刈谷市教育委員会・刈谷市美術館 後援=愛知県教育委員会 協力=ライオン株式会社

河目悌二展

西欧文化とデモクラシーの自由闊達な思想が

浸透しはじめた一九二〇年代は、芸術家たちによる

子どものための雑誌が数多く出版されました。愛知県碧海郡

刈谷町(現刈谷市)生まれの河目悌二(一八八九年—一九五八年)

もそうした時代に子ども向けの雑誌や書籍を舞台に活躍した

童画家の一人です。

河目は、愛知県立第二中学校(現愛知県立岡崎高等学校)を

卒業後上京し、一九〇八年東京美術学校(現東京藝術大学)西洋

画科に入学、黒田清輝、藤島武二らに師事しました。一九一三年

同校卒業後は、絵雑誌『トモダチ』で挿絵の仕事に携わる一方、

一九二〇年小林商店(現ライオン株式会社)に入社。子ども

に向けた口腔衛生の普及事業を展開するライオン歯磨の広告

の仕事を精力的に手がける傍ら、絵雑誌『良友』『子供之友』

『観察絵本キンダーブック』などに発表を重ねます。そして、

佐々木邦やサトウ・ハチロー、由利聖子らとコンビを組み、

数多くの作品を生みだしました。一九三七年に小林商店を退社

した後は、童画家としての活動に集中し、第二次世界大戦中も

絶えることなく描き続けました。戦後も殺伐とした時代だから

こそ子どもの本の世界に留まり、温かで生活感あふれる画風を

『こどもクラブ』などの各誌で展開しました。

本展では、貴重な原画をはじめ初版の雑誌や書籍、写真や

資料を含めた二〇〇余点を展示します。初公開の学生時代の

スケッチから、今までほとんど紹介されてこな

かった広告デザイナーとしての仕事を含めたそ

の画業をたどり、洗練された描線と美しい色彩

が織りなす河目芸術の世界を紹介します。



会期中の催しもの

I. 講演会「河目悌二の仕事通史」

7月25日[土] 午後2時～午後3時30分

講師＝松本育子(刈谷市美術館学芸員)

展覧会の開催準備を通じて、明らかになった河目悌二の画業についてお話しします。

会場＝刈谷市美術館2階研修室

定員＝80名(先着順)

*聴講無料 *当日、直接会場にお越しください。

II. ギャラリー・トーク

7月23日[木]・28日[火]

8月20日[木]・27日[木]

午後1時30分～各約40分程度

担当学芸員による展覧会解説ツアーです。

当日、1階ロビーにお集まりください。

*聴講無料

上3点:ハツユメ『コドモノクニ』(第11巻第1号/部分)東京社
1932年 大阪府立国際児童文学館蔵



[交通のご案内]

電車 JR・名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口から徒歩約10分

*「刈谷駅」はJR「名古屋駅」から快速で約15分

車 名古屋方面より国道23号線(知立バイパス)

「一ツ木IC」から約5km ※駐車場あり(無料60台)

刈谷市美術館 Kariya City Art Museum

[右のQRコードから美術館モバイルサイトに簡単アクセス]

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地

TEL:0566-23-1636 FAX:0566-26-0511

<http://www.city.kariya.lg.jp/museum/>



- ちひさな汽車(『子供之友』第21巻第2号原画)1934年 婦人之友社蔵
- 『講談社の絵本 ニルス冒険』大日本雄弁会講談社 1954年 大阪府立国際児童文学館蔵
- オヒナサマ『観察絵本キンダーブック』(第1集第9編)フレーベル館 1929年 大阪府立国際児童文学館蔵
- がりぼーとこびと(『こどもクラブ』第7巻第9号原画)1951年 個人蔵
- 『良友』(第7年第5号)コドモ社 1922年 大阪府立国際児童文学館蔵
- 笑の爆弾(『少年倶楽部』第24巻第4号附録原画)1937年 個人蔵
- スズメ/デンデンムシ『子供之友』(第14巻第5号)婦人之友社 1927年 婦人之友社蔵
- 朝とねるまへの良い習慣 1934年 ライオン株式会社蔵